隊員と家族をつなぐ 家族会ほっとライン

自衛官の人的基盤強化④

令和6年12月20日に発表された「自衛官の処遇・生活環境の改善及び新たな生涯設計の確立に関する基本方針」。第4回は、新たな生涯設計の確立について紹介します。

若年定年制における将来不安の払しょく

基本方針では「若年定年制で多くの自衛官が56歳で退職する中、再就職や再就職後の再就職・収入に不安を感じさせないようにすることが、自衛官の確保にとっても重要な課題」としています。

この際「一般職の公務員の定年を65歳に引き上げるにあたり、民間の給与水準を踏まえ、60歳から65歳までの給与水準は、60歳時の約7割の水準に設定されているところ、自衛官の所得水準は、一般に、若年定年後に退職時の7割強に低下し、60歳時点で更にその7割に低下する構造になっている」として「こうした状況を踏まえ、一般職の国家公務員よりも若年で退職する自衛官の退職後の収入を確保し、引き上げていくことが必要である。

また、現在、退職自衛官が再々就職する場合には国の支援が受けられない現状にある。自衛官が安んじて国防の任務に精励することができる、これまで以上に充実した生涯設計の確立が必要である」と述べています。

①自衛官としての知識・技能・経験を活かした再就職先の拡充等

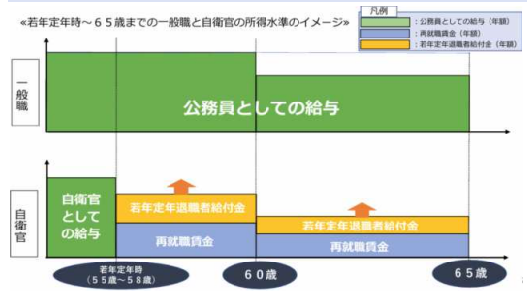
具体的には「退職する自衛官が自衛隊で培った知識・技能・経験を活かすことができる環境を整える。具体的には、退職する自衛官のより円滑な再就職や再就職賃金の充実などを実現すべく、関係省庁と防衛省が連携して幅広い業界や経済団体に対し退職自衛官の活用等についての働きかけを行い、再就職先の拡充を図る」としています。

また「これまで培った知識・技能・経験を活かした人材の有効活用や自衛官の生涯設計の観点から、健康寿命の延伸と精強性の確保の均衡に考慮しつつ、一般隊員の定年を令和10年度以降2歳程度引き上げることを念頭に詳細な検討を行う。

また、一部の職域に適用されている60歳定年については、宇宙、サイバー、医療関係などの分野のうち体力依存度が低いと認められるものにも拡大することについて検討する。

①知識・技能・経験を活かした再就職先の拡充等

- 円滑な再就職や再就職賃金の充実などを実現すべく、**関係省庁と防衛省が連携して幅広い業界や経済団体に働きかけ**を行い、退職自衛官の再就職先を拡充
- 警察、消防、海上保安等様々な**公的部門における退職自衛官の活用推進**
- 地方公共団体の防災・危機管理部門における退職自衛官の採用の拡大、安定的な雇用と処遇の確保に向け、**地域防災マネージャー制度**について、**財政措置を含め、その在り方について検討**
- 再就職に向けた**職業訓練の充実**
- 自衛官のキャリアパスを紹介する**動画の作成**等、**再就職先拡充のための広報強化**
- 海技士や航空整備士等の**公的資格を取得しやすくするためのプロセスの簡素化**
- **令和8年度中**に若年定年制自衛官が離職する際に実施している再就職の拠助について、一定の要件の下、**65歳に至るまで、国がこれを援助するための制度を整備**



これらの具体的な引上げ幅や対象等について令和7年夏頃を目途に決定する。また、自衛官の再任用の対象を定年退職後に自衛官としての勤務から一旦離れた者にも拡大するなど、定年後再任用者の確保のための施策を推進する」としています。

②若年定年退職後の国からの給付水準の在り方

「これまで以上の充実した生涯設計を確立し、自衛官の若年定年退職後も安心して生活できるよう、部外の専門家の意見を踏まえ、令和8年度から施行することを目指し、若年定年退職者給付金の給付水準の引上げを検討する。その際、施行前後で大きな不公平感が生じないよう留意する」としています。

退職自衛官の部外力としての活用

基本方針では、退職自衛官の部外力としての活用についても記載され「我が国の人口減少が継続し、深刻な人手不足社会の到来が現実のものとなり、所要の数の自衛官の確保が困難となることが見込まれる中、新たな戦い方のための要員の所要に対応するに当たっては、自衛官の担うべき業務の整理を引き続き検討するとともに、自衛隊で知識・技能・経験を培った退職自衛官を中心とする法人や団体への業務の委託などを含めた、部外力としての退職自衛官の活用の在り方について検討を進める」としています。

空幕人事教育計画課長（唯野昌孝1等空佐）にお聞きしました。

―空自の観点からのポイントについて教えてください。

◇　◇

新たな生涯設計の確立につきまして、いかに第2の人生を不安なく過ごせるのか、ひいては現役自衛官時代に退職後の憂いなく任務に専念できるかという観点でさまざまな検討をしております。

人生100年時代と言われ、多くの企業で定年が引き上げられておりますが、多くが60歳以前に定年を迎える自衛官は、民間企業においてもまだまだ活躍が期待できます。

その際、長年自衛隊で培った知識、技能、経験は再就職先でも十分に活かすことができ、企業にとっても個人にとってもWin-Winの関係となるとともに、予備自衛官として登録していただければ、有事の即戦力としても期待できます。

加えて、若年定年退職者給付金も見直されることで退職後の安定した生活につながることは、自衛官として定年まで職務を全うする大きなモチベーションになると期待しております。

いずれにしましても、入隊から退職後まで安心して働ける自衛隊に向けて、本基本方針を着実に進めてまいります。

府中市（東京都）

第50回定期総会を盛大に開催
府中基地と市民をつなぐ架け橋として

府中基地内にて会議を開催

府中市自衛隊家族会（若菜廣会長）は、航空自衛隊府中基地と府中市民の架け橋としての役割を担い、活動を続けています。

毎年の定期総会は、府中基地司令および府中募集事務所のご配慮により、基地新庁舎の会議室で開催されています。

今年は節目となる「第50回定期総会」を、6月1日に開催しました。多数の会員が参加する、年に一度の貴重な機会として、新会員の自己紹介をはじめ、定例議案の審議、活発な意見交換、情報共有、改善課題の確認など、実りある総会となりました。

会議後は、記念撮影や空自関係慰霊碑への参拝、さらに隊員食堂での昼食会を実施。特に新会員の方々からは、感動の声が多く寄せられました。

こうした活動を通じて、私たちは「部隊・隊員支援活動」「家族支援協力活動」「募集支援協力活動」などを一層推進しています。支援対象となる家族の方々も入会され、総会や日常の交流を楽しみにされている様子がうかがえます。

日頃の会員とのつながりには、手配りによる「おやばと新聞」の配布を活用。高齢者や支援対象者への声かけを大切にしており、現在は市内を5ブロックに分け、5人体制で取り組んでいます。市外・県外の会員には郵送で対応しています。

また、会員同士の情報共有にはインターネットを積極的に活用しており、8割以上の会員が利用中です。遠方の会員との円滑な連絡、迅速な情報提供、さらには郵送費削減にもつながっています。

現在の山下府中基地司令は、前職が「石川地方協力本部長」であり、家族会活動への深いご理解とご支援を賜っています。基地主催の音楽祭は、会員にとって大きな楽しみの一つです。

今後も、関係各所や会員のご支援の下、さらなる高みを目指して日々まい進してまいります。

（府中市自衛隊家族会　会長　若菜　廣）

愛媛県

海幕副長の防衛講話を熱心に傾聴
県自衛隊家族会が定期総会を開催

6月1日、愛媛県自衛隊家族会は令和7年度定期総会をホテルマイステイズ松山にて開催いたしました。

第1部の総会では、森川会長より「現職隊員の家族への働きかけによる会員拡充の必要性」について力強く提言がありました。続いて、山本宇和島地域協議会長を議長に選出し、議案審議を実施。議案説明は越智事務局長、成井監事が担当し、全ての議案および報告は全会一致で承認されました。多くの来賓にもご出席いただき、家族会への理解が深まりました。

講話する海上幕僚副長・八木浩二海将

また、入隊式・入校式・修了式・卒業式・記念行事・賀詞交換会・観桜会・音楽祭など、年間20件以上のさまざまな行事にも出席しています。

中でも特に意義深いのが「自衛隊入隊・入校予定者激励会」です。予定者の紹介の際には、県知事が一人一人と握手を交わし、激励してくださいます。これは予定者にとって非常に名誉なことであり、士気の向上にもつながっています。

式典後の懇談会で「なぜ自衛隊を志望したのか」と尋ねると、多くの若者が「災害派遣で黙々と人命救助にあたる自衛隊員の姿を見て感動した」「被災者が感謝の言葉を述べている映像を見て、自分もそのような存在になりたいと思った」と語ってくれます。

こうした明確な目的意識をもって隊員となる若者たちは、きっと立派な自衛官へと成長してくれると信じています。そして彼らを陰から支える自衛隊家族会として、私たちの責任と役割の重さをあらためて実感しています。

家族会長等奮戦記　98

山口県自衛隊家族会
会長　和田　和年

はじめに

私は、前会長の突然の逝去により、何の引き継ぎもないまま会長に就任いたしました。

就任当時はコロナ禍の真っただ中で、各種行事は中止または縮小を余儀なくされ、自衛隊経験のない私にとっては、手探りの状態が続きました。ようやく最近になって通常の活動が再開されつつありますが「家族会会長奮戦」とは程遠い現状です。

山口県の紹介

山口県は本州の西端に位置し、三方を海に囲まれた自然豊かな県です。瀬戸内海、日本海、関門海峡に面し、美しい海岸線と豊かな漁業資源を有しています。

観光地としては、幕末の志士たちが学んだ松下村塾、日本三名橋の一つである錦帯橋、日本最大級のカルスト台地・秋吉台などが有名です。

また、山口県はこれまでに8人の内閣総理大臣を輩出しています。これは、幕末に長州藩が果たした役割や、明治維新を支えた人材がその後も日本の政治に関わり続けたという歴史的背景によるものと考えられます。

山口県の自衛隊の状況

山口県には、陸・海・空すべての自衛隊が所在しており、これは全国でも数少ない特徴の一つです。

- 陸上自衛隊・山口駐屯地（山口市）

第17普通科連隊などが駐屯し、地域防衛や災害対応に従事しています。

- 航空自衛隊・防府北基地（防府市）

主に教育航空隊を中心に、操縦士訓練などの教育機能を担っています。

- 海上自衛隊・岩国航空基地（岩国市）

航空部隊が所在し、救難飛行艇の運用などが行われています。

なお、県内にはこのほかにも、航空自衛隊・防府南基地、見島分屯基地、海上自衛隊・小月航空基地、下関基地隊、陸上自衛隊防府分屯地などがありますが、ここでは県自衛隊家族会が連携・協定を結んでいる主要な3つの基地・駐屯地を中心にご紹介しています。

県自衛隊家族会では、前述の3基地・駐屯地と「隊員家族の支援に関する協力協定書」を締結し、「千里の道も一歩から」の精神で施策の実現に取り組んできました。

絆と信頼を紡ぐ
山口県自衛隊家族会の歩み

神奈川県

地区再編と連携強化の一年へ
会長、会員約50人が総定期会に参加

各議案は円滑に審議・承認された

6月7日、神奈川県自衛隊家族会（中條祐介会長）は、かながわ労働プラザにて令和7年度定期総会を開催しました。国歌斉唱、会長あいさつの後、各議案は円滑に審議・承認されました。

今回の総会では海老名・綾瀬地区会と厚木愛甲地区会を統合・再編し「県央地区会」を新設する報告がなされました。

統合の背景には、後継者不在による運営困難という課題がありました。中條会長は「この問題を未然に防げなかったのは私の責任でもあるが、今後も同様の課題が起こりうる」と述べ、各地区会長に対し後継者の育成にも十分な配慮をお願いしたいと呼びかけました。

会長および会員、総勢約50人が出席しました。

総会冒頭では、5月14日に発生したT－4練習機の墜落事故で殉職された隊員に対し、全員で黙祷を捧げました。国歌斉唱、会長あいさつの後、各議案は円滑に審議・承認されました。

今回の総会では海老名・綾瀬地区会と厚木愛甲地区会を統合・再編し「県央地区会」を新設する報告がなされました。

議事終了後には、陸上自衛隊武山駐屯地より厚生班長を招き、家族支援協力に関する説明が行われました。

その後の表彰式では、受賞者の誇らしげな表情が印象的でした。

続く第2部では隊友会・郷友会との共催による防衛講演会を実施。元海上幕僚長・自衛隊家族会理事山村浩氏を講師に迎え「海上防衛力の役割と海自の活動」と題した講演が行われました。山村氏は、現在の厳しい安全保障環境の中で、平和をいかに維持していくかについて、ユーモアを交えながらも分かりやすく解説し、参加者の関心を集めました。

第3部では、隊友会・郷友会との合同懇親会を開催。横須賀地方総監部幕僚長・山口宜久海将補をはじめ、多くの来賓が出席され、団体を越えた交流が今後の協力体制の強化につながる有意義な場となりました。

本年度も、神奈川県自衛隊家族会は、自衛隊の諸活動を積極的に協力し、隊員が誇りを持って任務にまい進できるよう、会員一丸となって支援してまいります。

（神奈川県自衛隊家族会　会長　中條　祐介）

東京都

隊員と家族をつなぐ役割を担う
新事業と新表彰制度も開始

第1師団長・鳥海誠司陸将による講演

5月24日、東京都自衛隊家族会（森山尚直会長）は東京地方協力本部会議室にて令和7年度定期総会を開催いたしました。

冒頭のあいさつで森山会長は「現下の厳しく複雑な安全保障環境を踏まえると、隊員の家族を主体として活動する自衛隊家族会は『隊員と家族をつなぐ』という最も基本的かつ重要な役割を果たすことが求められています。今後も皆さまのご尽力をお願い申し上げます」と、会の意義と協力の継続について述べました。

総会で了承された令和7年度事業計画には、新規事業として、10月19日に全会員を対象とした防衛講話（勉強会）を開催することが盛り込まれました。

また、改正された「東京都自衛隊家族会表彰及び感謝状贈呈規則」に基づき、永年会員への表彰制度も本年度より開始されることとなりました。

総会後は、場所をホテルグランドヒル市ヶ谷に移し、第1師団長・鳥海誠司陸将から「変化する安全保障環境と自衛隊」のご講演をいただき、実経験に基づくお話に、自衛隊をより深く理解することができました。

その後は、同ホテルにて来賓を交えた懇親会を開催。和やかな雰囲気の中、関係者同士の親睦を深める貴重な機会となりました。

最後に、総会および事業運営に多大なご支援をいただいた東京地方協力本部の皆さまに、心より御礼申し上げます。今後も、東京都自衛隊家族会は「隊員と家族をつなぐ」重要な役割を担い、活動を推進してまいります。

（東京都家族会　理事　冨樫　勝行）

兵庫県

現場の声とつながりを強化
隊員支援と地域交流を深めた充実の総会

相園和宏陸将補による記念講話

6月8日、兵庫県自衛隊家族会は、ホテル北野プラザ六甲荘にて、定期総会・記念講話・意見交換会を開催しました。当日は80人を超える参加者が集い、盛況のうちに行われました。

定期総会では、高木会長が議長を務め、令和6年度の事業報告、収支報告、会則の改正、役員改選が滞りなく審議・承認されました。

続いて、令和7年度の事業計画および予算計画も可決され、今後の活動方針が固まりました。

総会に続いて、陸上自衛隊伊丹駐屯地司令・相園和宏陸将補による記念講話が行われました。演題は「南スーダンにおけるPKO活動回顧録」。普段は知ることが難しい海外派遣の現場について、実体験に基づく臨場感あふれるお話を、分かりやすくご講演いただきました。聴講者一同、深い感銘を受けるとともに、相園陸将補のお人柄にも触れる貴重な機会となりました。

最後の意見交換会では、相園陸将補をはじめ、県内の多くの現役自衛官の方々にご出席いただきました。

また、防衛関係団体からは兵庫県隊友会・小川祥一会長、国防を考える会・高橋忠義会長と小山みどり統括委員長、中部方面音楽隊後援会・寺田英四郎会長が参席。さらに、国会・県会・市会各級議員の皆さまにも多数ご参加いただき、非常に意義深い意見交換の場となりました。

中でも好評を博したのが、各地区会長による2分間スピーチです。地域の特性や活動内容、課題などがコンパクトに共有され「各地域の実情を知れて良かった」と参加者から高い評価を得ました。

（兵庫県自衛隊家族会　会長　高木　清志）

編集後記

▽G7開かれるもトランプ大統領は途中帰国！石破首相は米韓大統領と会談、緊迫のイラン情勢も――詳しくは1面で！

▽自衛隊家族会の総会&表彰式が開催！　全国の代表が集い、防衛省との協力体制強化にも言及。

▽3面「論壇」に高田理事が防衛官（仮称）創設や定年後の国家的雇用など本質的処遇改善を提起。

▽自衛隊家族会長等奮戦記は98回目。今回は山口県自衛隊家族会・和田和年会長の「はじめに」から。

▽4面「家族会ほっとライン」は、「自衛官の人的基盤強化④」。令和6年12月20日に発表された「自衛官の処遇・生活環境の改善及び新たな生涯設計の確立に関する基本方針」。第4回は、新たな生涯設計の確立について紹介します。

▽5面「家族会ほっとライン」は、「海幕副長の防衛講話を熱心に傾聴」。愛媛県自衛隊家族会が定期総会を開催。

▽6面「家族会ほっとライン」は、「隊員と家族をつなぐ役割を担う」。東京都自衛隊家族会が新事業と新表彰制度も開始。

▽7面「家族会ほっとライン」は、「現場の声とつながりを強化」。兵庫県自衛隊家族会が隊員支援と地域交流を深めた充実の総会。

▽8面「家族会ほっとライン」は、「地区再編と連携強化の一年へ」。神奈川県自衛隊家族会が会長、会員約50人が総定期会に参加。

▽1面「家族会ほっとライン」は、「第50回定期総会を盛大に開催」。府中市（東京都）。府中基地と市民をつなぐ架け橋として。

▽2面「家族会ほっとライン」は、「絆と信頼を紡ぐ」。山口県自衛隊家族会の歩み。